

issue of the haiku journal Sasa

池本健一

Kenichi Ikemoto

先月号に続いて、筆者が所属する目黒英語俳句サークルが催した俳句フェスティバル参加者の作品を紹介する。今回はカナダの Janick Belleau 女史の句である。

I'd introduce Ms Belleau's haiku

a striped cat
in the Heian-like garden
a wandering soul

平安朝風の庭園に縞模様の猫 さまよえる魂のよう

Janick はカナダ・モントリオール近くに在住し、カナダ俳句協会などの会員。英文毎日のコンテストで2等入賞など各地のコンテストに入賞、5冊の出版、5冊の監修など、多方面に活躍している。 **Brief introduction of Ms Belleau**

当句はなかなか趣深い句である。部分的にも、「さまよえる魂」など関心をそえられるところが多いので、このベテラン作者がどのようにして当句を得たかについて種々尋ねた。その結果はおよそ次の通りであった。

Explanation how you wrote this haiku as you told me in your email.

Janick はフェスティバルの期間中、国際文化会館（東京・六本木）に滞在した。ある朝、庭園に面した部屋の窓から、縞模様の猫が庭園の石畳の道をゆっくりと歩いているのが見えた。同夜、同じ猫を近所の家の庭で見かけた。翌日の夜明けにも、やはりゆっくりと歩いていた。

そのとき、猫が「さまよえる魂」であるとのイメージが湧いたという。会館の庭が平安朝風に作庭されているとの説明を読んだことを思い出したこと、かねてより、平安時代の女流作家たちに傾倒していること、フェスティバルのテーマが、「俳句の聖地への巡礼」であることなどから、比喩的、表象的に、魂が世紀を超えて彷徨っているようにも思えたとのことである。単なる状況報告に留まらず、過去の勉学の蓄積と眼前の瞩目を融合させて、深い感慨を一句にまとめ上げていく作句の姿勢と手法はすばらしいと思う。

実は Janick に軽い誤解があった。会館の釣殿風の建物は平安時代の絵巻物風の様式を取り入れたものであるが、庭園（7代目小川治兵衛の作庭）は桃山時代または江戸初期の名残りを留めている近代庭園の傑作とされており、「平安朝風の庭園」ではない。しかし、作者が「平安朝風」と感じたのであれば、

それはそれでよいと思う。作者には平安朝への深い憧憬があったのである。

Your question about *kigo* and my reply.

日本滞在を終えて帰国後、今度はこの熱心な作者から質問のメールが来た。

「友人は当句には季語がないと言うが、どう思うか。自分は庭園の樹木や草花などの植物、そこに生息する動物などから、庭園は十分に季節を表す、季節感があると考えるが、どうか」というのである。これに対して弊見を縷々回答したが、ここでは骨子2点を記すにとどめたい。

①基本的に日本語の俳句と外国語の俳句は別のジャンルに属するほど多くの点で異なるので、季語、その他に同じ物差しを適用するには無理がある。

②季感には個人差があるので、ある作者があるものに季感を感じるものであればそれでよいのではないか。芭蕉も「発句も四季のみならず、恋・旅・名所・離別等、無季の句ありたきものなり」と言っており、実際に、無季の句も詠んでいる。一茶・子規・蕪村、その他の著名俳人の多くにも無季の句がある。

歩行ならば杖突坂を落馬哉 芭蕉
亡母や海見る度に見る度に 一茶

Examples of haiku by Basho and Issa without *kigo*. ↑

最後に、Janick の4句を紹介しておきたい。最初の猫と合わせて、比較的小さな動物への優しい眼差しが感じられる。

Four haiku by Ms Belleau

pretty spider
why choose my bathtub
to die?

小さなクモさん どうして私のバス・タブを死に場所に選んだの？

campus ground
black squirrel, beaver and I
having lunch

大学のキャンパスでランチを食べる 黒リスとビーバーと私とで

if I could sweep away
your illness
as I do the dead leaves

枯落葉を掃き捨てるように あなたの病を拭い去ってしまえばいいのに…

summer night
drowning out the sound of waves
a rock band

夏の夜のロックバンド 波音をかき消すほどの